

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」のお話をブックレットにまとめ、発行しています。無料でどなたにでも差し上げますので、ご希望の方は、キリスト教センターへどうぞ。チャペルにも置いてあります。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洗善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纒)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(柏木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小堀 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？」  
一子どもの物語と聖書に見られるくしようがい者>差別一  
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなに人？ 一間 (はざま) から読む聖書一」  
(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳―野宿生活者の現場から―」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウィッシュ〜夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)
- No.20. 「宗教が戦争の原因？ 一神教がアブナイ？」(桃井 和馬)

目次

- 新入生の皆さんへ…………… (2)
- 敬神愛人について思うこと…………… 阿部 太郎 (4)
- まずは自分のなかで考えてみよう…………… 安東 真衣 (6)
- 異質なものととの出会いの勧め…………… 稲葉 論香 (13)



# 新入生の皆さんへ

## 敬神愛人



(F.C.クライン)

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」  
イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」これが最も重要な第一の掟である。

第二も、これと同じように重要である。「隣人を自分のように愛しなさい。」

(新約聖書 マタイによる福音書22章36～39節)

名古屋学院大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは自分で選んだにせよ、大学に選ばれたにせよ、とにかくこの大学の学生となられたのです。皆さんはこの大学について何をご存知でしょうか。これからいろいろな機会に聞かれたり、読まれたりされるでしょうが、ここでも少しお話したいと思えます。

☆

私立の学校はそれぞれ独自の理念、「建学の精神」を持って建てられ、またそれを継承して運営されています。わが名古屋学院大学の「建学の精神」は「敬神愛人」です。これは前述の新約聖書から引用されました。

人間は神を愛し敬うこと、そして自分を愛するように隣人を愛すること、この「敬神」と「愛人」を一番大切な掟として守らなければならないという、イエス・キリストの教えです。これは、ただ人と仲良くしなさいというヒューマニズムからだけでなく、神を敬うことによって成立する隣人愛です。これを教育の基本にしているのです。

☆

1883年、アメリカからフレデリック・チャールズ・クライン (F. C. Klein) という宣教師がキリスト教の伝道と英語学校を目的として来日しました。そして横浜に英語学校、教会をつくるなど伝道の成果をあげ

げ、彼が次の着任地として夫人とともに名古屋に来たのは1887年でした。彼らは名古屋に着いたその日から英語の学校を開いたのです。現在は名古屋市中区栄のちよつと東に位置します。その「私立愛知英語学校」は「名古屋英和学校」と改称し、これがわが名古屋学院大学の基となりました。

その時、クライン博士がその教育の基本理念として掲げたのが「敬神愛人」でした。

☆

新入生の皆さん、皆さんはこれから少なくとも四年間はこの大学の学生として勉強をしていくのです。ここでは勉強ばかりでなく、人間を成長させていくことにも励んでください。

そして私たちは祈っています。「敬神愛人」が示すように、皆さんが自分を愛するように他人を愛することができると、また、人間の力を過信することなく、それをはるかに超えた存在を認める、謙虚な人間へと成長を遂げることができると。

## ◆ チャペルへの招き ◆

チャペルでは週に二回、チャペルアワー、カレッジアワーと称してキリスト教の礼拝の時間を設けております。チャペルに集い、教職員や近郊の牧師の奨励を聴き、賛美歌を歌います。大学は決して、皆さんにキリスト教の信仰を持たせようと考えているわけではありませんが、世界の大きな文化の源流の一つともいえるキリスト教に少しでも触れて、何かを感じていただければと考えております。

＜名古屋キャンパス＞：チャペルアワー 火曜日12:40～13:10 白鳥学舎チャペル  
カレッジアワー 木曜日12:40～13:10 白鳥学舎チャペル

＜瀬戸キャンパス＞：チャペルアワー 金曜日13:00～13:30 瀬戸学舎チャペル  
(第1週目の金曜日はカレッジアワーとして実施)

☆

チャペルは原則としていつでも開いています。静かに落ち着きたいときはどうぞお気軽に利用してください。ただし、大声でのおしゃべり、飲食は禁止です。チャペルの椅子に座り、静かに自分と向き合い、語りかけ、そして内なる声に耳を傾けると、新しい導きをそこに見出したり、また何か発見があるかもしれません。また、チャペルでは宗教講演会やコンサートなどの様々な行事や勉強会などを行っています。

## 敬神愛人について思うこと

阿部 太郎

本日は本学の建学の精神「敬神愛人」について思うことをお話ししたいと思えます。まず「愛人」のほうから話していきます。私はこの10年間名古屋学院大学で教える中でいろいろな学生と出会ってきましたが、自己肯定感の低い人が少なくないと感じてきました。例えば、偏差値が高くない大学にいるから自分はダメだとか、〇〇ができないから自分はダメだとか、そういうことを言っている人が意外に多いという印象があります。敬神愛人の基になっている聖書の箇所には、「隣人を自分のように愛しなさい。」と書いてあります。この隣人を愛しなさいというのですが、「自分のように愛しなさい」ということですから、当たり前前のことです。自分が自分を愛するというのが前提となっていて、私は、自己肯定感の低い学生には特に、自分を愛するということをここで言っているということを知って欲しいと思います。本学はこのよくな建学の精神を掲げているわけですから、大学の4年間の生活の中でいろいろな経験すると思えますけれども、その中で自己への愛を深めて欲しい、それが建学の精神と一致することなのだと考えています。

次に、「敬神愛人」ということで、「敬神」と「愛人」が並んでいます。これはどういうことなのか。聖書を読みますと、第一

と第二は両方が同等に重要であるという風に書かれています。「敬神」は神を敬うということですが、神様というのはどういう存在なのか。一言で言うなら全能の存在であるというわけです。そうすると、当然私たち一人ひとりに比して全能であるわけですから、その存在によって私たち一人ひとりは不完全であるということがはつきりするわけです。ですから、例えばよく学生が話題にする勉強ができていけないということとは、ある意味神という存在からすればたいした違いではないわけです。これは、不完全性という意味においては同等であるということだと思います。私も大学で経済学を教えていて、学生よりは経済学を知っていると思えます。だからといって完全に経済のことが分かっているかという、そんなことはないわけです。勉強ができるできない、お金持ちである、そうではない、そういう違いはとも大きなものに見えます。しかし結局人間はみな死にます。死ぬという意味では同等であります。「敬神」という言葉に結局どういう意味があるのかというと、一人ひとりは不完全でそういう意味では同等であるという認識を持つ必要があるということではないかと思っています。不完全な人間だからこそ、隣人を愛したり、自分を愛したりすることが可能で、

「敬神」という考え方があからこそ「愛人」という言葉に実質的な意味が与えられるのではないかと考えています。ですから、「敬神」と「愛人」は別々のものではない一体のものであると考えています。最後に不完全であるということでは完全にたどり着けないということでありますから、悲しいことですが、た

完全になれないからこそ不完全さを少しでも克服しようとすることに意味がでるのではないかと考えています。私もですが、皆さんそれぞれいろいろ不完全性というものをもっていると思います。自分が、そういうものを少しでも克服して自分を向上させていくような大学生生活にしたいだけだと嬉しく思います。

(あべ たろう 経済学部教授 2016.4.14 カレッジアワー奨励)



# まずは自分のなかで考えてみよう

安 東 真 衣

今日お話しするテーマはいたってシンプルで、「物事について、まずは一旦自分で考えてみよう」「ちゃんと知る」ことになって、見えてくるものがあるのではないか、ということ。「名古屋市の魅力」を題材にして、皆さんと考えたいと思います。

名古屋市について、皆さんはどんなイメージを持っていますか？ ちょっとと思っ浮かべてみてください。今、名古屋市が魅れない都市ナンバーワンだといわれています。その理由を簡単に説明します。名古屋観光文化交流局が名古屋、東京、大阪、神戸、福岡、京都、横浜、札幌の8都市に5年以上住んでいる20～64歳の3,330人を対象に、都市ブランドイメージ調査を行い、名古屋は、「8都市の中で最も魅力的だと感じる都市は？」という問いで最下位、「8都市の中で最も魅力に欠ける都市は？」という問いでは第1位、「お友達や知り合いに買い物や遊びに名古屋をお薦めしますか？」という問いでも最下位という結果でした。また、他の都市の住民は、自分が住んでいる都市が一番魅力的だと答えた人の割合が多いのに対し、名古屋の人は自分が住んでいる名古屋より別の都市のほうが魅力的だと答えた人が多かったという結果でした。この結果は名古屋市のホームページにも公表されています。さらに、名古屋市はインターネッ

トを利用し、500人の名古屋市民に、「最も魅力がない街だといわれることについてどう思うか」というアンケートをしました。アンケート結果についてNHKニュースでは、名古屋が最下位になったことに対し、「残念だが仕方ない」が60%と最も多く、「当然だと思う」は21%に対し、「全く違うと思う」は9%、「なんとも感じない」は7%で、「残念だが仕方ない」と答えた人にその理由を聞くと、45%の人が「他の都市の方が楽しいから」と答えると報じていました。自分の住む都市を魅力的だと答える人が少なく、名古屋は魅力がないという結果にも納得してしまう人も半数を超えてしまっていますね。

ここでみなさんが、名古屋市は魅力のない都市ナンバーワンだと聞いた時に、「そっか、名古屋は魅力がないんだ」とすぐに納得してしまうのではなく、今日のテーマである「物事を一旦自分のなかで考えてみる、ちゃんと知ると見えてくるものがある」、を思い出ししてほしいと思います。たとえば、今回の調査では、何を「都市の魅力」だととらえて、何を基準にして調査をしたのでしょうか。「魅力」ってそもそも何なのでしょう。また、8都市の住民にアンケートを行ったとあります。名古屋以外の7都市は名古屋よりもっと大きな観光都市で、名古屋がその観光都市と並んで対象とされたことが果たし

て正しかったのか、広島、仙台、金沢や岐阜などが調査対象に入っていたら結果はどうだったのか、などと考えることもできます。もちろん調査結果を受け止めて、じゃあどうしたら名古屋が魅力的になるのか、と建設的な視点を持つこともできるとも思います。

名古屋の魅力について、私も考えてみました。ぱっと考えただけでも10個ほど浮かびました。その中からいくつかを挙げます。その1、「名古屋は効率的な街」です。買い物ならいろんな駅で降りて買いまわらなくて、名古屋駅、栄などに行けばある程度揃う、繁華街が非常にコンパクトな街です。地下街が発達しているので雨にも濡れません。その2、「名古屋は外食、ご飯がおいしい街」です。え？と思うかもしれませんが、ある番組でマツコ・デラックスさんが名古屋の食事はおいしいと話していたことがあります。私の東京の友人からもそう言われたことがありますし、もちろん私もそう思います。他の都市に比べて値段に対するボリュームがあり、リーズナブルだと思います。その3、名古屋はコンパクトな分、近場のお出かけスポットがたくさんあります。名古屋で観光というと、名古屋城、東山動物園、名古屋メシなどになりがちですが、各地でさまざまなお祭りやイベントがやっています。先々週には、大学の学生も参加した、西区円頓寺商店街のバリ祭というイベントがありました。本学の横を流れている堀川を走る水上シャトルバス、おもてなし武將隊、テレビ塔の下で開催されるソーシャルタワーマーケット、と祭りの古い町並みや有松絞など、

まだまだたくさんあります。名古屋から1～2時間で蒲郡、知多、鳳来寺山、タコヤフグで有名な日間賀島、アートの佐久島、紅葉狩、果物狩などにも行くことができます。その4、「名古屋は住みやすく、暮らしやすい街」です。この住みやすい、暮らしやすいという点は、名古屋の魅力と総合していると思います。「暮らしやすい街はどこですか？」というアンケート項目があれば、また違う結果が出たかもしれません。

私の考える名古屋の魅力が話しましたが、以前は私も「名古屋はお友達にお薦めするところがないなあ」と思っていました。ですが、5年ほど前から朝活を始めたことでその考えは変わりました。私が参加している朝活は、出勤前の朝1時間を使い、業種も職種も違う人たちと色々なテーマで行う勉強会で、私は名古屋朝大という市民団体の運営のお手伝いをしていきます。この活動では、名古屋を中心とした愛知、岐阜、三重の地域で頑張っている人にたくさん出会いました。実際に話を聞いてみると、面白い取り組みを行っている人や場所がたくさんあって、その場所に行ってみたら本当に魅力的なものがたくさんありました。ちゃんと知らないのに「つまらないなあ」と言ってしまう自分があったのですが、知らないものを知ることによって、いろいろな人と繋がっていくことで知識が増えていく、といういい循環が生まれました。ちゃんと知ることによって見えてくるものがある、これも皆さんにお伝えしたいことの一つです。

私が名古屋の魅力として挙げた点は、

名古屋の人にとってはそれが当たり前すぎて魅力だと気付かないということがあ  
るかもしれません。自分では当たり前だ  
と思っていたことが、実は外から見たら  
本当はすごく特徴的なことだったという  
場合も多くあります。短所は逆に考えれ  
ば長所だと気付くこともあります。

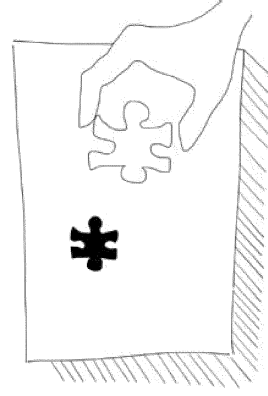
今日のテーマに話を戻すと、「まずは一  
旦自分で考えてみよう、ちゃんと知るこ  
とによって見えてくるものがある」とい  
うことです。「角度や視点を変えて、自分  
のなかでよく考えてみる」「よく知ろうと  
する」ということを是非やってみて欲し  
いと思います。

では「名古屋学院大学」を題材にして考  
えてみたらどうでしょうか。1年生は入  
学してまだ8か月程度なので、大学のこ  
とを全部知っていると言える人は少ない  
でしょう。だからこそ、この大学をもっと  
知ると見えてくるものがあります。その  
ためには大学という空間や場所をどんど  
ん活用して欲しいと思います。活用とい

うのは施設を使うという意味だけではな  
く、いろんな人と話をすることです。学部  
す。今年には1,600人が入学しました。学部  
学科も違えば、名古屋学院大学を選んだ  
理由、動機、興味などがそれぞれ異なる人  
たちと話すことで、「○○学部はこんな面  
白い授業・イベント・講演があるんだ」「学  
生主体のこんな活動があるんだ」など、新  
しい発見があるはずです。留学を希望す  
る学生と話してみたら、留学のイメージ  
が変わるかもしれません。私のように大  
学に勤める職員や、所属学部の先生、ある  
いは所属学部以外の先生と話してみるの  
も活用の一つです。いろんな場所に顔を  
出して、そこで出会う人と話をすると、見  
えていかなかったものが見えて、より知る  
こともでき、自分の考えをより深いもの  
にしてくれるのではないのでしょうか。

これで私の話を終わりますが、皆さん  
に何か一つでも残るものがあれば嬉しい  
ですし、お伝えしたかったことが少しで  
も伝わればと願っています。

(あんどう まき 学事課長補佐 2016.11.24 カレッジアワー奨励)





# 異質なものと出合いの勧め

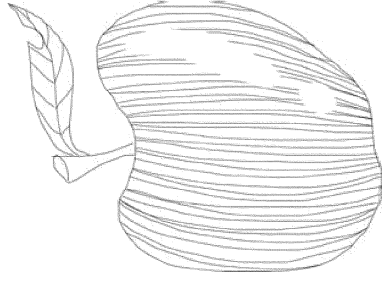
稲葉論香

皆さんは日常生活や学生生活の中でどのようなことを重視し、または目標にしていますか。授業や部活を頑張りたい、気の合う仲間をたくさん作りたい、とにかく遊びたいなど色々な答えがあると思います。自分の生活の中から目標を立てて、気の合う人や仲間と充実した時間を過ごすことは、本当に大切なことだと思います。しかし、それに加えて、まったく想像もしていない、自分とは違うものの、異質なものと出合いもたくさんして欲しいと私は思っています、今日はこれをテーマに、留学という切り口からお話をさせていただきます。

私は高校を卒業してすぐ19歳でロサンゼルスに留学のため渡米し、結果的に3年ほど留学することになりました。皆さんはロサンゼルスと聞きますとどのようなイメージをお持ちになるでしょうか。太陽が燦々と降り注ぐビーチ、国際的で多民族な街、あるいはハリウッドがありセレブが多く住んでいる街というイメージがあるかもしれません。もちろんそうだったことも事実ではありますが、実際に行ってみると私が思い描いていたイメージとは大きく違っていました。その中でも、最も衝撃的だったことは、スペイン語を話すヒスパニック系の人、特にメキシコ人の多さでした。ロサンゼルスが位置するカリフォルニア州の人口は約4,000万人ですが、人口の実に37%がヒスパニック系の人、スペイン語を話す人だったのです。

私は若かったということもあり、例に漏れず上記のようなイメージを持っていましたので、実際に行ってみると「こんな風だとは思わなかった」という状況に直面しました。良く考えてみると、ロサンゼルスという言葉自体が英語ではなく、「天使たち」という意味のスペイン語です。それを知った時には自業自得だと思えました。お店のロゴですとか、色々な建物の名前がほとんどスペイン語で書かれており、英語で書かれていることが少なくないくらいでした。こういった状況を目の当たりにし、最初のころは相当つまずきました。もちろん英語が第一言語ですので、英語の勉強もできましたし、スペイン語が話せないと生活ができないなどということはありませんでしたけれども、何も知らない19歳の若者にとっては、こうした予想外の状況は大きな衝撃となり、最初描いていたイメージや目標も一旦リセットされたような気持ちになりました。

最初は不満ばかりで、「何でこんなところに来てしまったのだろう」、「もうちょよっちゃん」と調べれば良かった」など、後ろ向きなことばかりを考えていた時期もありましたが、片言の英語を使いながら、皆と仲良くなろうと自分なりに積極的に人と関わる中で、また違った状況が見えてきました。ヒスパニック系の方は移民として入ってきた方もいれば、移民の2世、3世として生まれ、英語しか話せない人もいました。ですから、英語を話す相手になっていただけた方もたく



さんいまいました、私が当初思ったほど困難な状況ではないと感じるようになりました。

また、例えばメキシコ人などのヒスパニック系の人々は、おおらかでフレンドリーな方が多く、お家に招いて頂いたり、仲良くならって親族の結婚式にも招待していただいたりすることがあり、こうした中で、その人たちの文化やどういった考えを持つかたちなのかを知ることができ、だんだんと面白くなってきました。それまで一面的に「あれがある、あれがない」と思い一喜一憂していた私でしたが、多面的に様々な面白さを理解することができるようになっていきました。これはヒスパニック系の人に限りません。他にも私が興味を持ったのは、同じ先祖ルーツを持つ日系人の存在です。同じ顔立ちをしています、英語しか話せない人が多くいます。こういった人々との出会いの中で良い経験、交流を持つことができました。

その他に、ロサンゼルスという街に滞在して知ったことは貧富の差です。アメリカではどの地域でも存在するものだと思いますが、その中でもロサンゼルスでは貧富の大きな格差が見られます。日本では感じることはないほどの差があります。例えば、1階建てのバラック小屋のような本場に質素な家に住んでいる人もいれば、丘の上のシャングリーアの大豪邸に住んでいる人もいます。そういう人たちが同じ学校で学んでいるという点もありません。こういう格差や違いに触れていく中で、色々なものに対応できるようになっていきます。最初は自分のイメージを中心に「これは合っている、合っているが、相手を理解しよう、理解したいという気持ちに変わる中で、イメージを払しょくし、現実を知り、受け入れることができるように変わっていったのだと思います。

今日、皆さんにお伝えしたいことは、「こ

うなんじゃない？」とか、「ああなんじゃない？」というイメージを変えていくことの大切さです。現実には往々にしてイメージよりもきらびやかではないことが多いが、実際に見たもの、感じたものは、皆さんの血となり肉となり、力になっていくものです。だからこそ、どんなに違っても、その時々の自分では想像できない世界に入っていくことで、イメージを超えて「一度むけた自分」を発見して欲しいと思います。ただ、それは「どんな人も好きになろう」ということではありません。どんな人でも受け入れられるという人はいないと思います。苦手な人や集団も出てくると思いますが、様々な人がいることを知るといっただけでも全く違ってくると思います。実際に見たことがないという状況よりは、少しでも実物に触れる経験があった方が、知らず知らずのうちにでも、色々なものを吸収しているのだと思います。

私はこの夏に12名の学生を連れてイギリスに行ってきました。参加した学生の感想文を読んだところ、「英語がそんなにできなくても何とかやっていた感じがわかった」というコメントがありました。こうした気づきが大切だと思うのですが、日本にいた時には英語が話せないと全くダメだと思っていたけれども、そういう訳でもない(そういうことばかりではない)ことに衝撃を受け、何とかなったという経験をする、そういうこととに気付けたということは、一つの大きな成果だと私は思います。こういった経験を一つ一つ積み重ねていくことで、どんどん物事に対応できる力が培われていきます。

良く言われることですが、日本人は自分とは違った人や知らない人を避け、同じものを好む傾向にあります。周りに異なるものが

ある中でも動じない姿勢は私たち日本人の苦手とするところなのではないかと思えます。しかし、海外で少数派の一人として生活している以上、自分から理解を求めていかなければいけません。片言でも自分から働きかけないといけない状況です。そのような中で、動じずに自分を何とか表現する力が身に付いていくのだと思います。

元テニスプレーヤーの松岡修三さんがプロテニスプレーヤーを育成する際にとっても重要なこととして行っていることがある、とテレビで言っていました。それは何かというと、みんなの前で突然音楽を流し、「踊りなさい」とか「英語で自己紹介をきなさい」と指示するのです。松岡さんがこういうことを実践していると聞いて、私は納得ができました。やはり語学やテニスの腕前の前に、知らないところに行ったら、私たち日本人は固まってしまい、何をしたら良いのかわからなくなってしまう、ということが良くあります。このような状況への対策として、動じずに自分を表現する力を付けようとする試みを松岡さんはされているということです。こういう意味で、知らないところ、特に海外で生活をするには、皆さんにとって自分の殻を破る良い機会になるのではないかと思います。

現在、「グローバルな人材や国際的な人を求めます」という企業のキャッチフレーズを良く耳にします。国際人とは何を指すのでしょうか。イメージが先行し、ハイレベルな語学力を身に付けた人のことだとまず思うかもしれませんが、やはり私は、誰とでも動じずに対面できる、そこに単純に居ることから始まる力が最も大事なのではないかと思えます。もちろんそういう力と語学力が

相乗効果的に上がっていくことが理想的ですけれども、国際的な人というのは、ただ大きな世界に飛び込んで行くのではなく、世界を自分側引き寄せで行けるような人だと思えます。異質なものを、ただのイメージから自分の目で見て現実に変え、それを受け止め、人にも働きかけていける能動的な姿勢を持つた人が、国際的な人なのではないかと思えます。

企業が学生に最も求める能力は何だと思いますか。近年ではコミュニケーション能力が第一位となっております。違ったもの、異質なものに対応できる力というのにも含まれてくると思います。最近では非認知能力という言葉も使われますが、点数化されない力、例えば協調性や忍耐力などを留学を通して養うことができると思っています。旅行ももちろん良い経験になりますが、様々な人に対応する経験、また現地の人と同じような生活をするとなると、やはり少なくとも1か月から2か月間の時間は必要になるかと思えます。これは皆さんが経験できることの中でも、最も大きな異質体験の一つであり、色々な対応力を身に付けるための絶好の機会になるのではないかと考えています。多くの人手にとつて、こうしたことが出来るのは学生時代しかなく、まとまった1、2か月という時間、海外に滞在するということとは本当になかなかできないことだと思います。

皆さんにはぜひ語学が好き、嫌い、でき、できないに関わらず留学にチャレンジして、異質なものとどんと出会い、たくさんのショックの中で自分の殻を破って欲しいと思います。ご清聴ありがとうございます。

(いなば ゆか 国際センター課長補佐 2016.12.8 カレッジアワード奨励)